

3. 当地区の課題

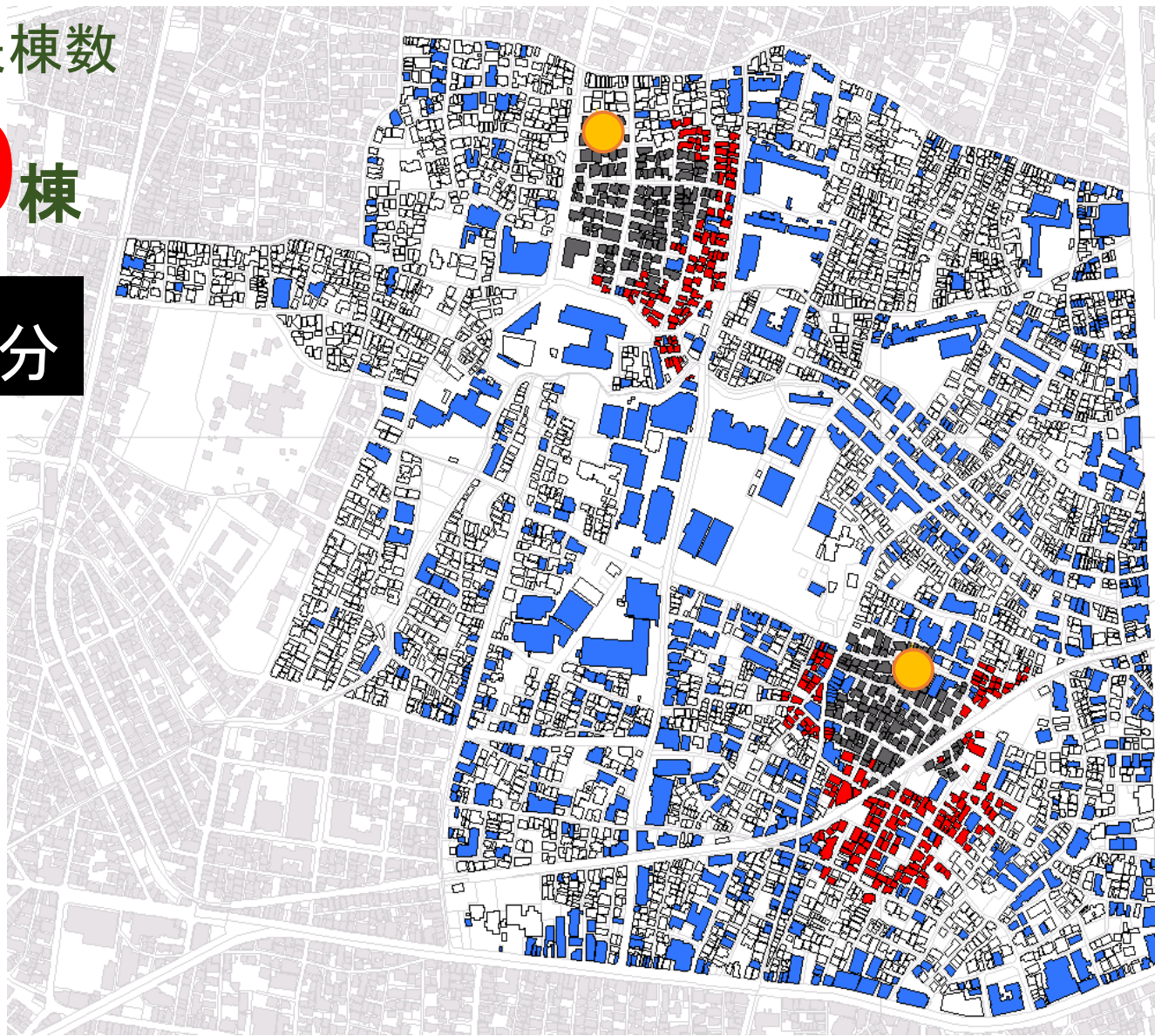
延焼シミュレーション

累計焼失棟数

569棟

180分

-  耐火造
-  出火点



出火点1
238棟

出火点2
331棟

3. 当地区の課題

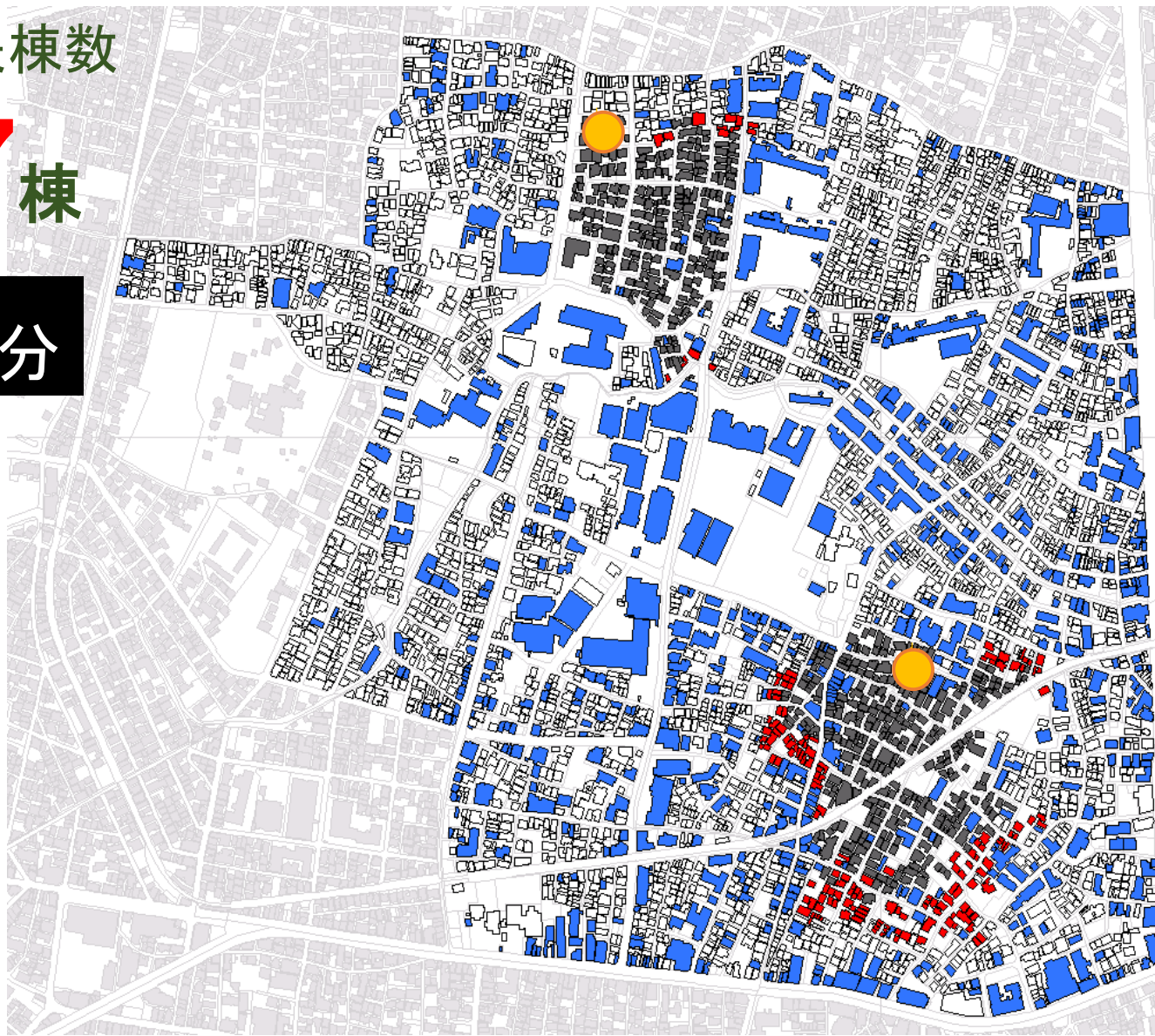
延焼シミュレーション

累計焼失棟数

737棟

210分

-  耐火造
-  出火点



出火点1
254棟

出火点2
483棟

3. 当地区の課題

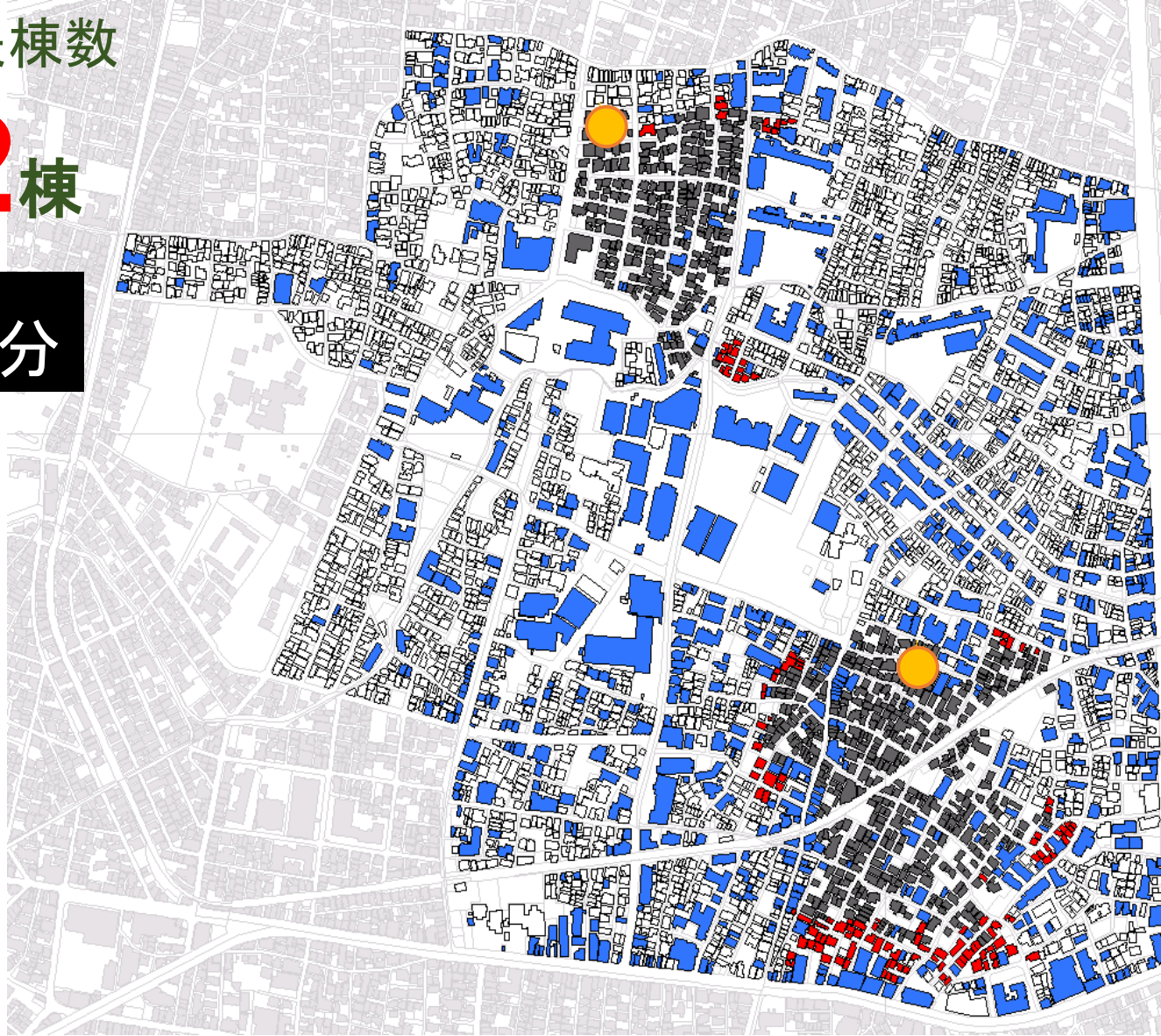
延焼シミュレーション

累計焼失棟数

872棟

240分

-  耐火造
-  出火点



出火点1
277棟

出火点2
595棟

3. 当地区の課題

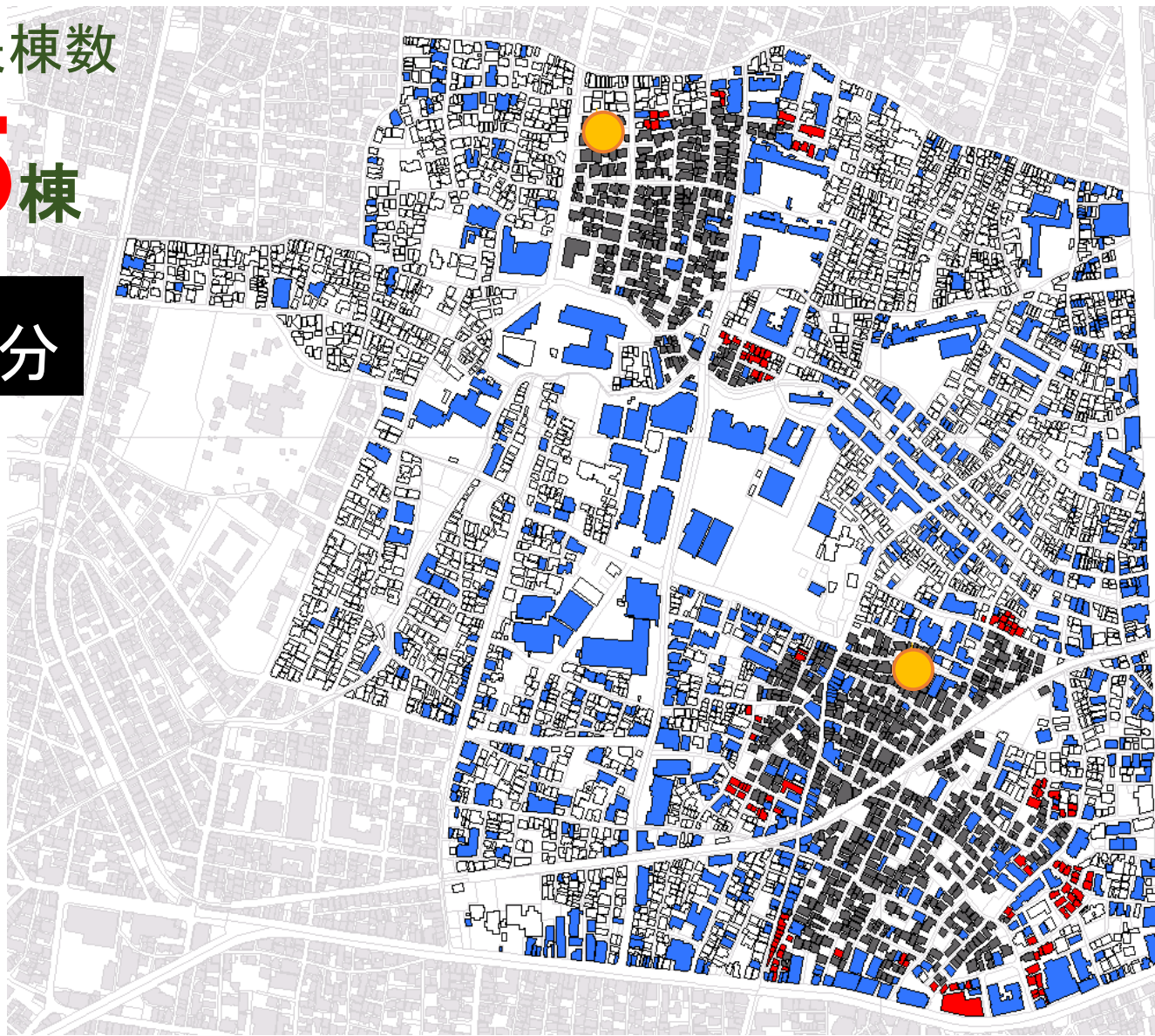
延焼シミュレーション

累計焼失棟数

995棟

270分

-  耐火造
-  出火点



出火点1
306棟

出火点2
689棟

3. 当地区の課題

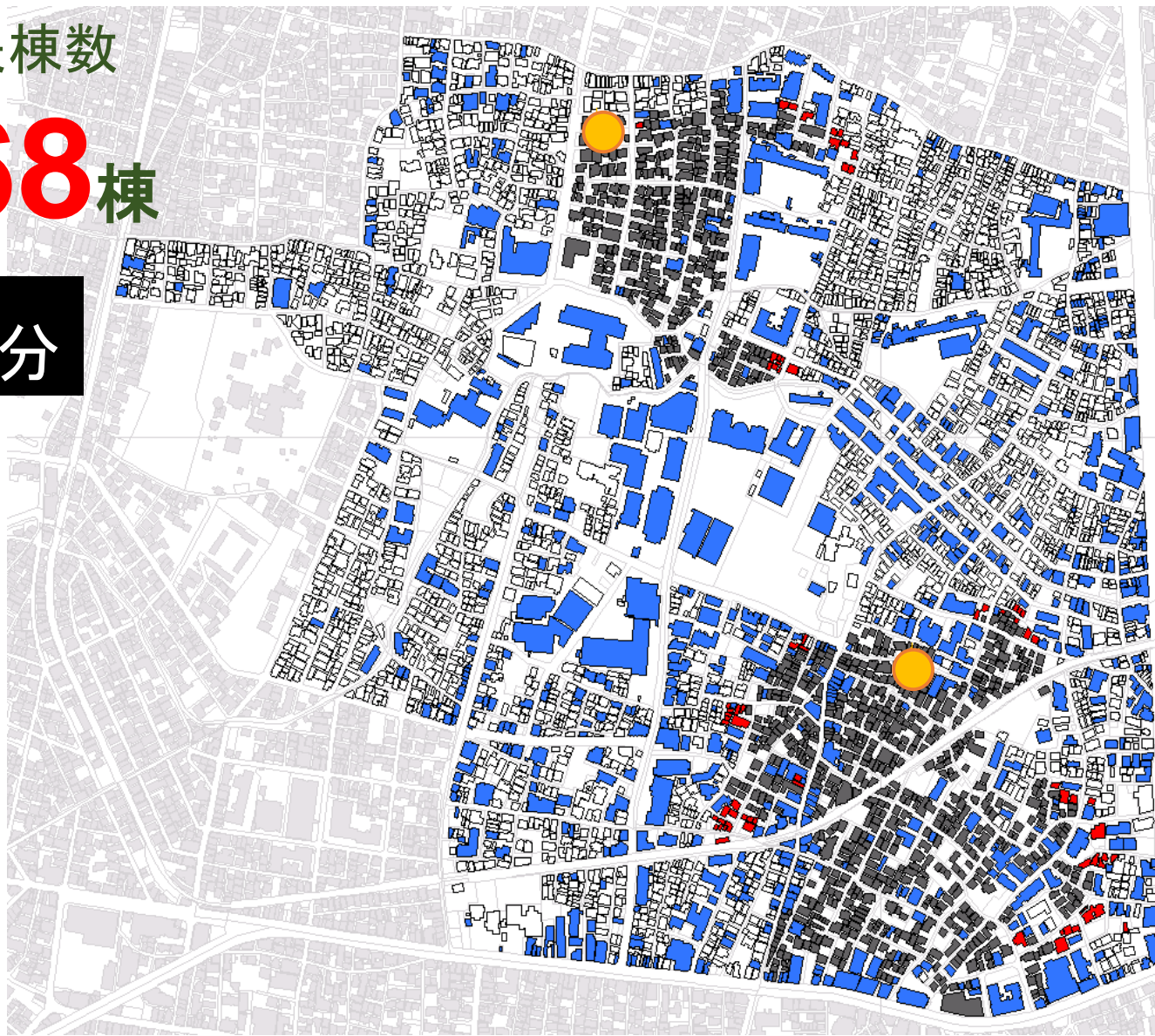
延焼シミュレーション

累計焼失棟数

1068棟

300分

-  耐火造
-  出火点



出火点1
325棟

出火点2
743棟

3. 当地区の課題

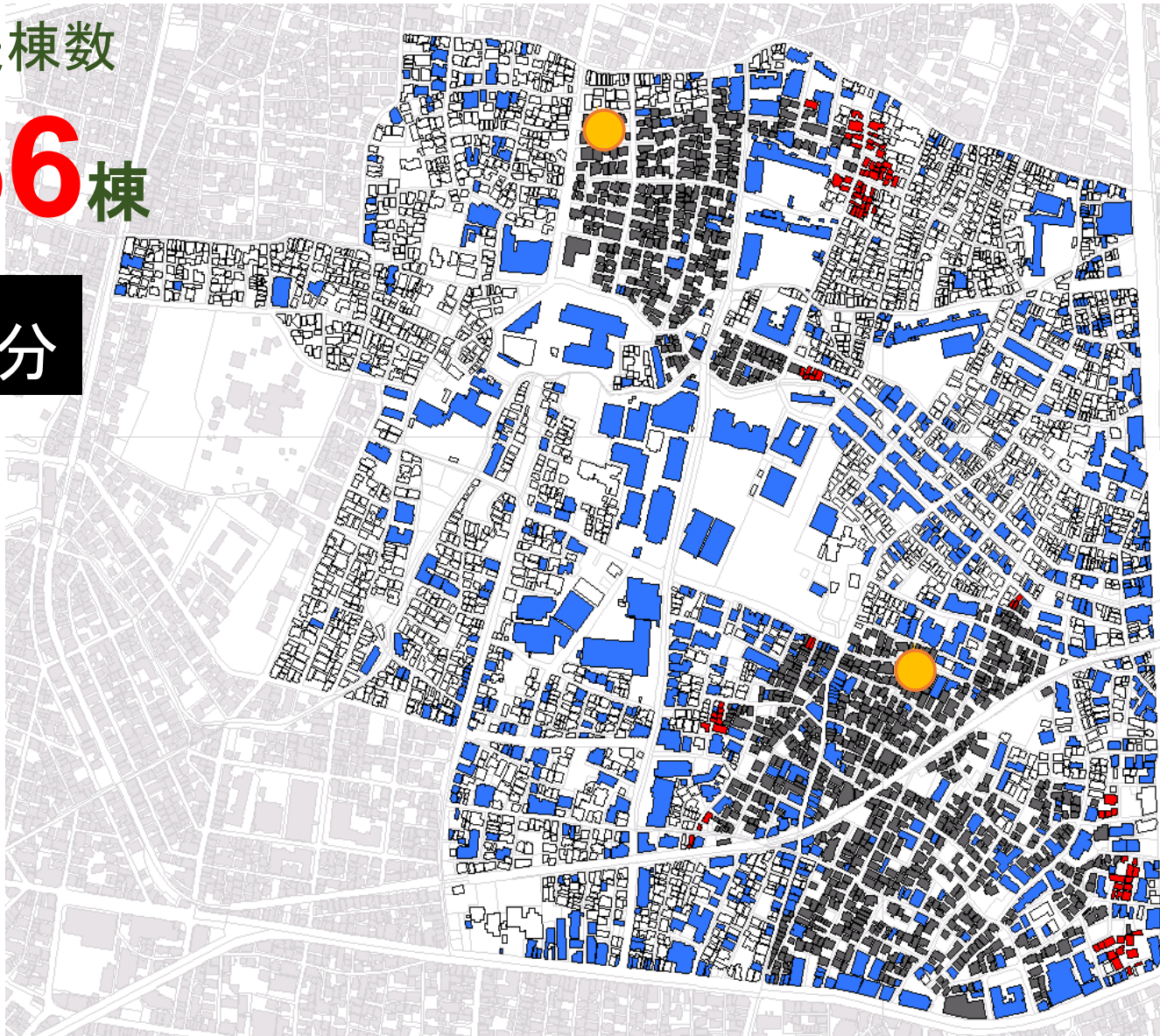
延焼シミュレーション

累計焼失棟数

1166棟

330分

-  耐火造
-  出火点



出火点1
379棟

出火点2
787棟

3. 当地区の課題

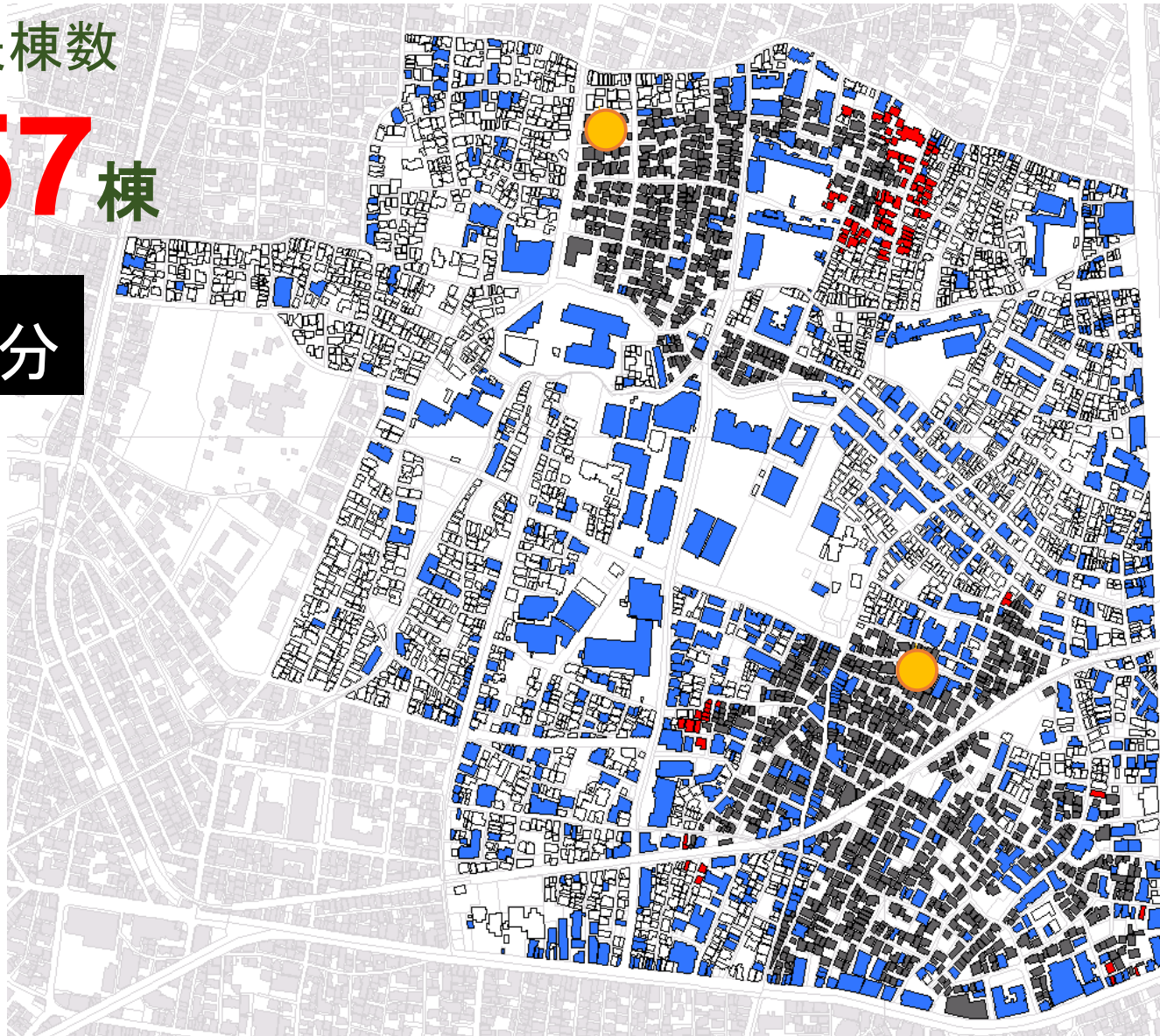
延焼シミュレーション

累計焼失棟数

1257棟

360分

-  耐火造
-  出火点



出火点1
447棟

出火点2
810棟

3. 当地区の課題

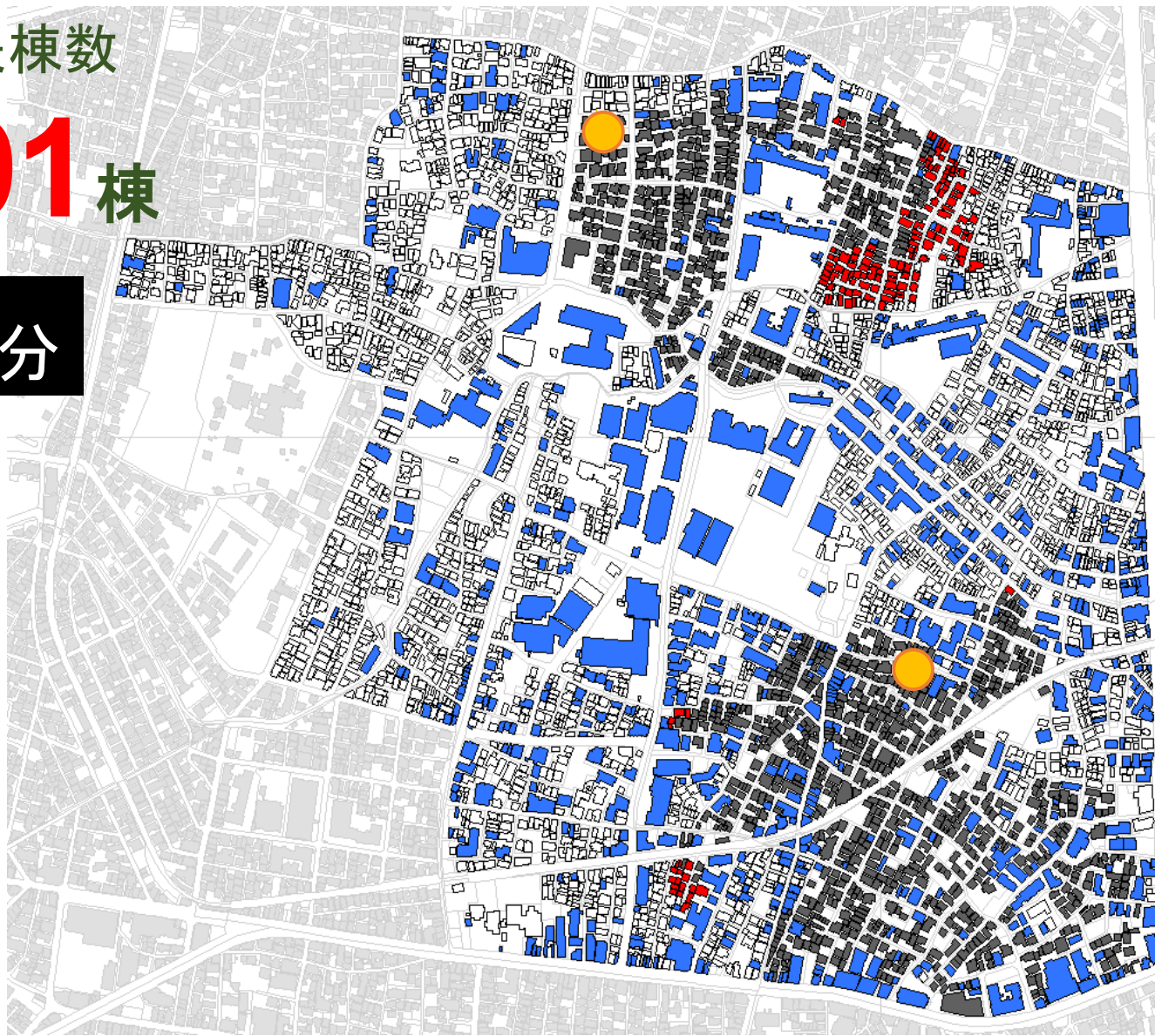
延焼シミュレーション

累計焼失棟数

1401棟

390分

-  耐火造
-  出火点



出火点1
570棟

出火点2
831棟

3. 当地区の課題

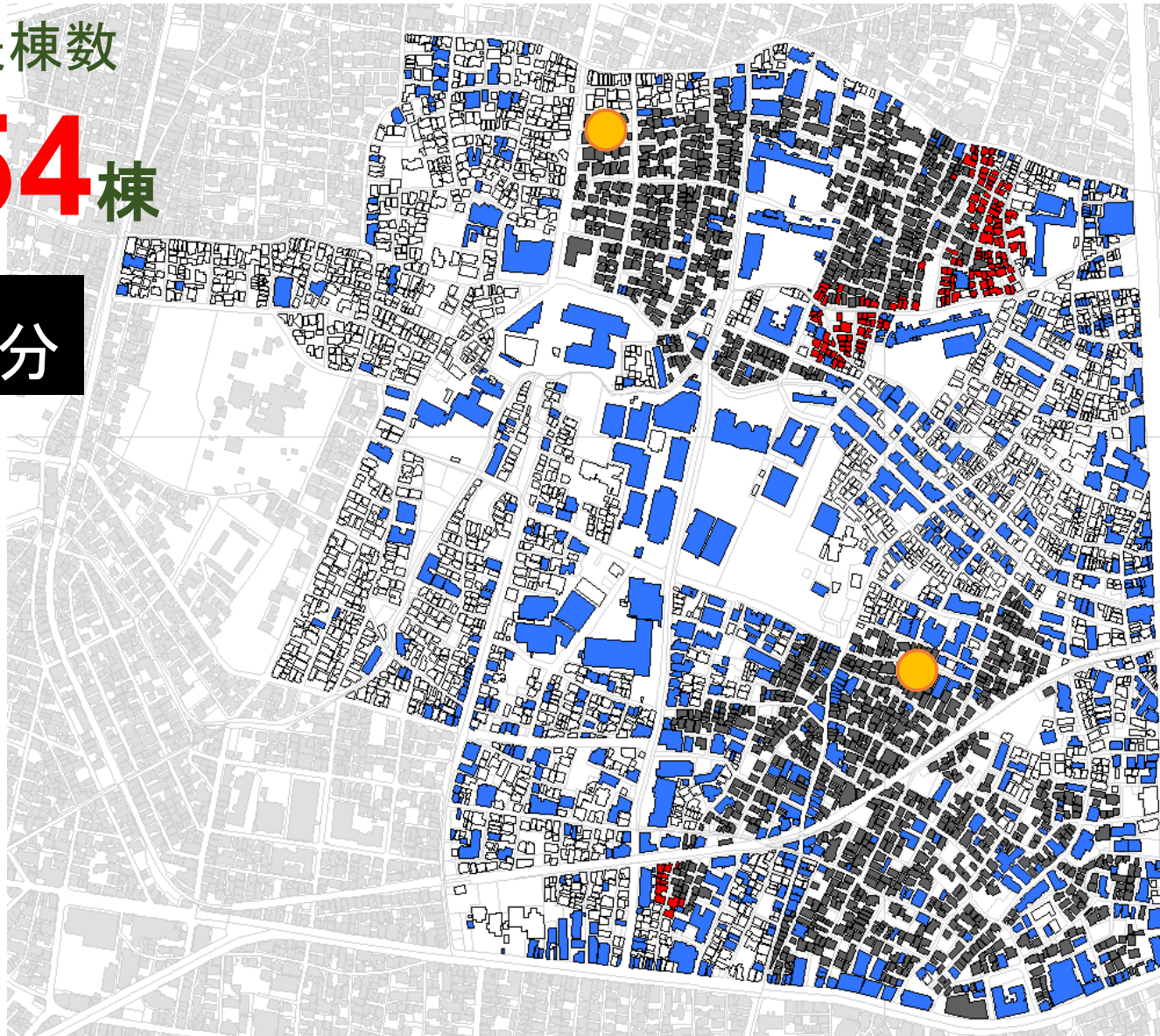
延焼シミュレーション

累計焼失棟数

1554棟

420分

-  耐火造
-  出火点



出火点1
711棟

出火点2
843棟

3. 当地区の課題

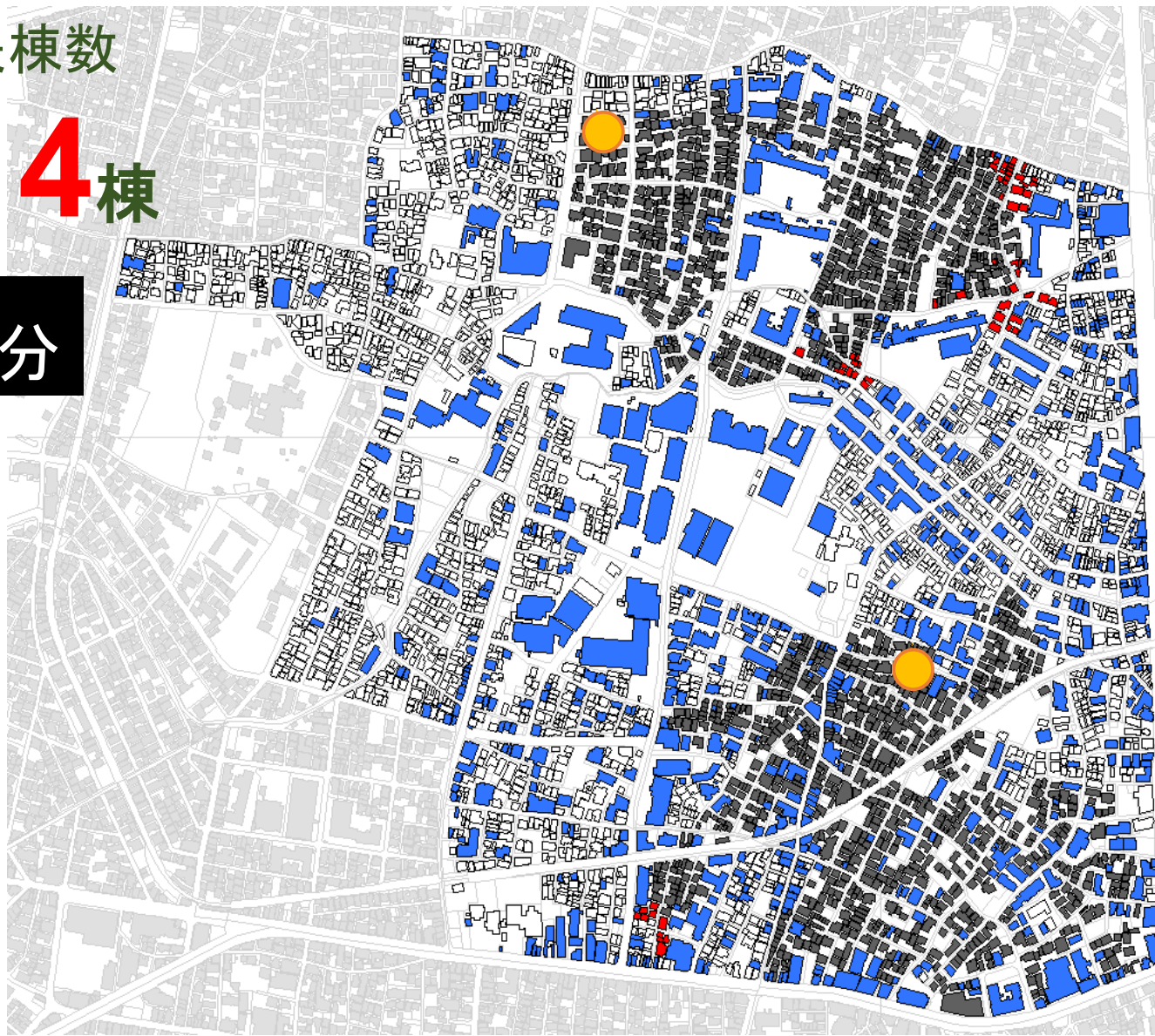
延焼シミュレーション

累計焼失棟数

1614棟

450分

-  耐火造
-  出火点



出火点1
761棟

出火点2
853棟

3. 当地区の課題

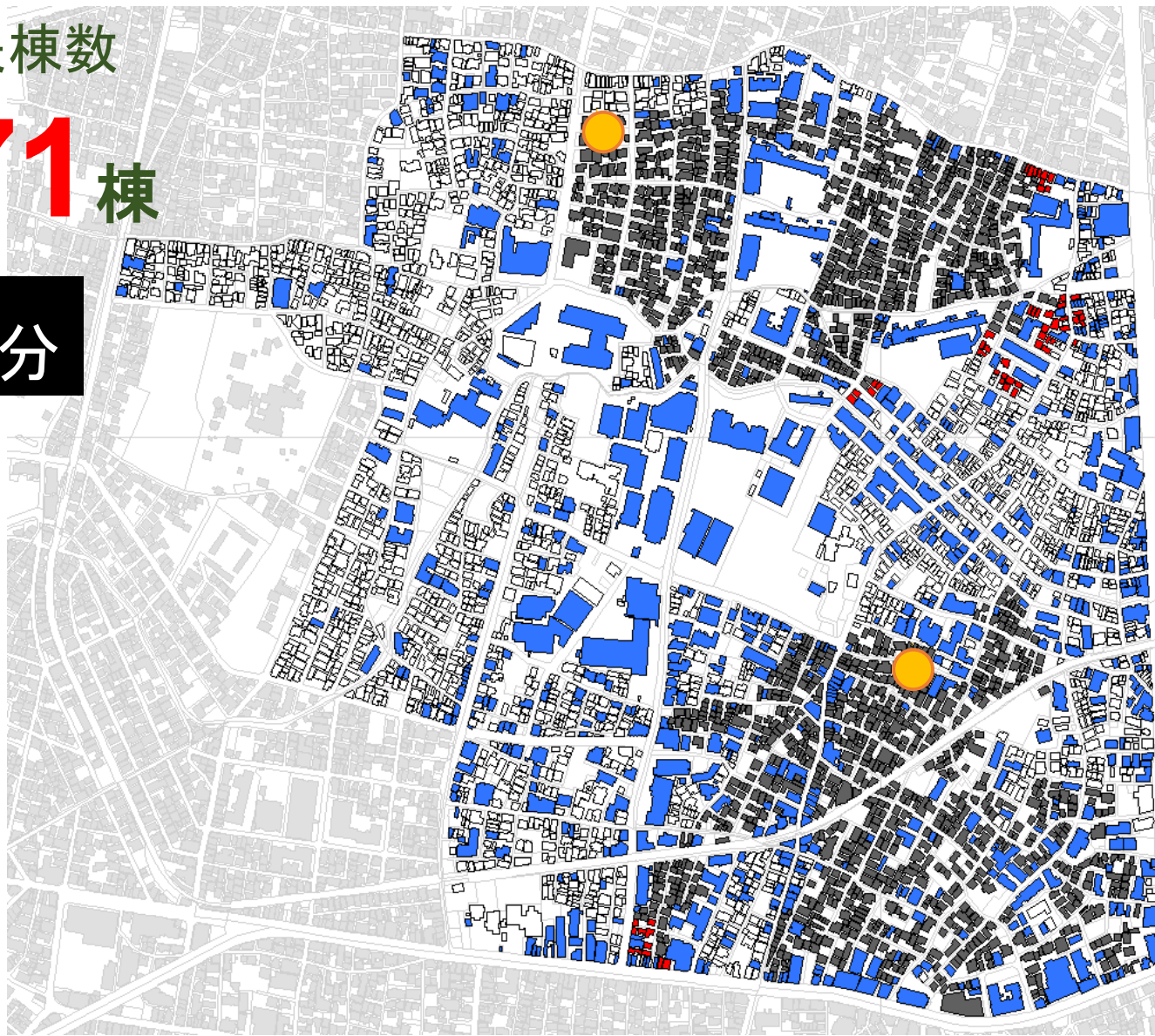
延焼シミュレーション

累計焼失棟数

1671棟

480分

-  耐火造
-  出火点



出火点1
808棟

出火点2
863棟

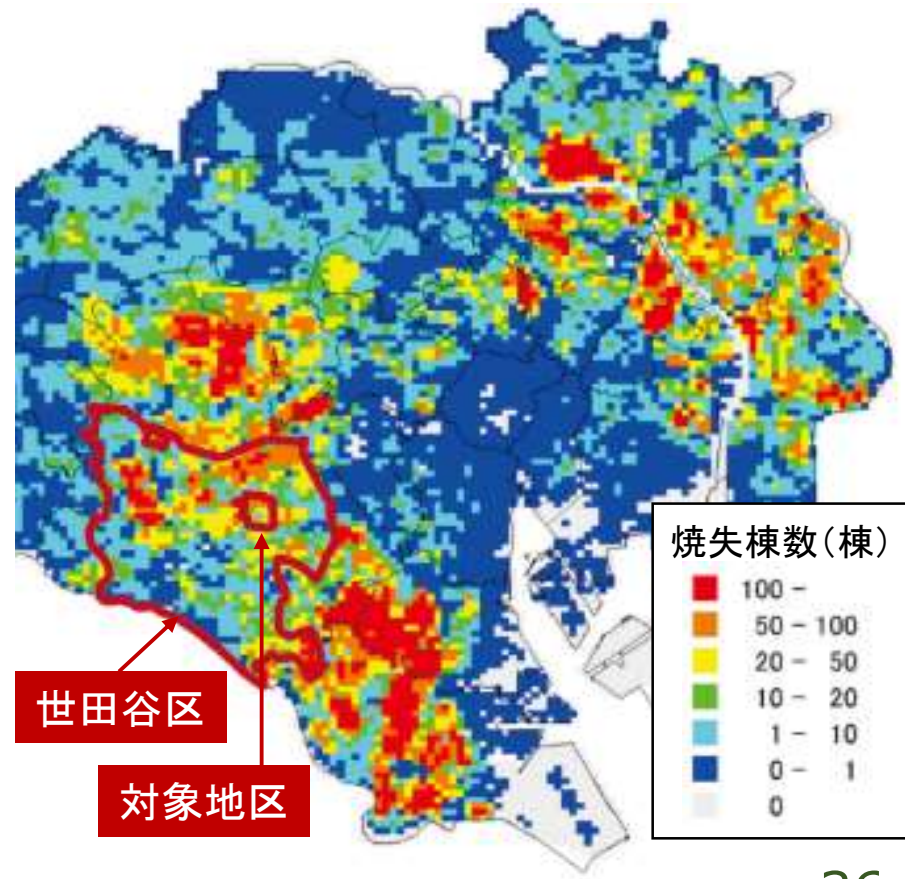
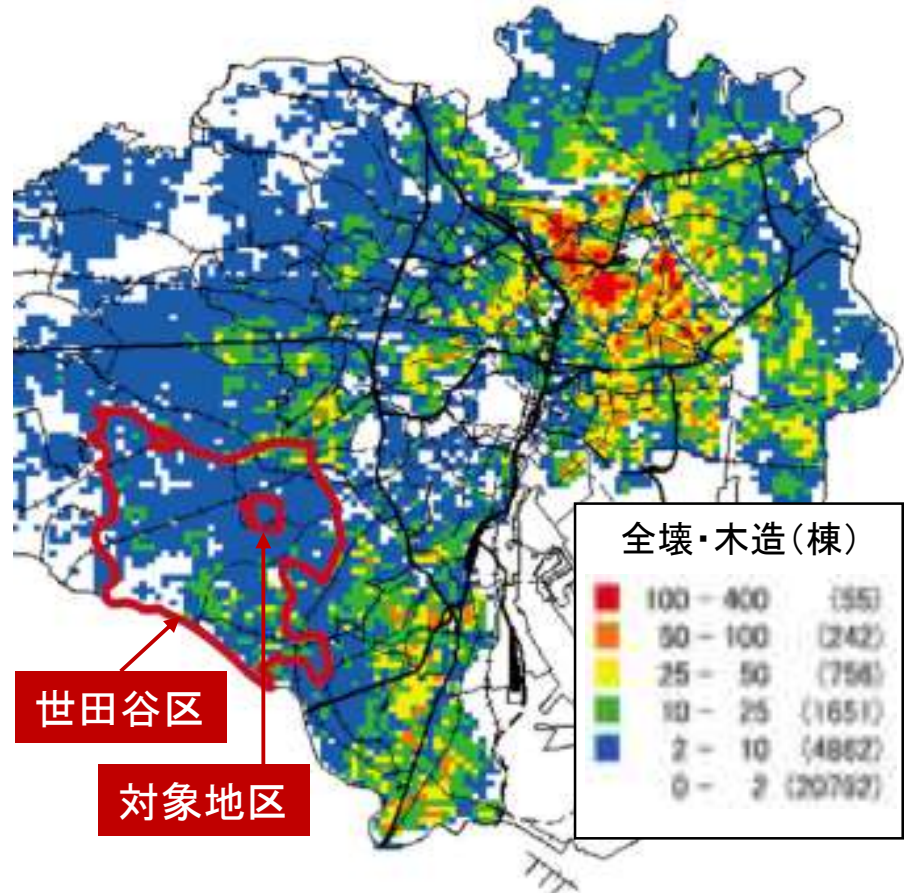
3. 当地区の課題

東京都 首都直下地震等による東京の被害想定(平成24年4月公表)

東京湾北部地震による建物被害(想定)

ゆれを原因とするもの 約116,200件

火災を原因とするもの 約188,100件
(冬18時風速8m/s)



3. 当地区の課題

[参考] 延焼火災による被害のイメージ

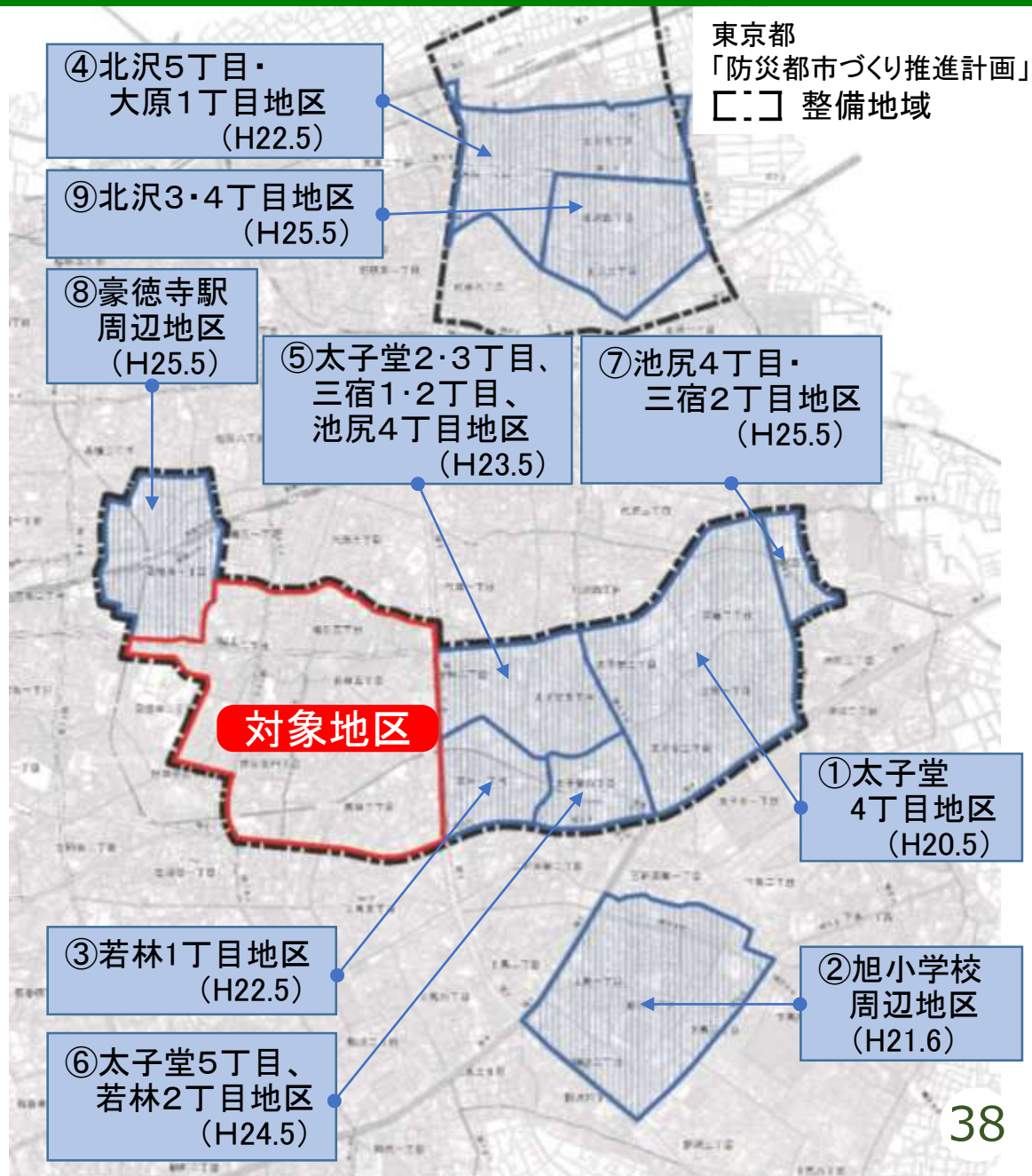


首都直下地震被災イメージ(CG)

3. 当地区の課題

面的整備が必要

- 東京都「防災都市づくり推進計画」による「整備地域」に指定されている
- 世田谷区では、9つの地区で「新たな防火規制」を導入してきた



より災害に強い街をつくるため、

「**新たな防火規制**」の区域を

地区全体に広げていきたい！

4. 「新たな防火規制」の導入

「新たな防火規制」制度の説明

「新たな防火規制」とは・・・

- 密集市街地の防災性能を高める
- 耐火性能の高い、
「耐火建築物」または「準耐火建築物」

4. 「新たな防火規制」の導入

「耐火建築物」または「準耐火建築物」とは

耐火建築物

火災時に、主要な構造部分が
4階建て以下の建築物では1時間以上
さらに階数により2・3時間以上
耐えるなどして倒壊しない構造とした建築物

主に鉄筋コンクリート造、鉄骨造など



準耐火建築物

火災時に、主要な構造部分が
45分以上
耐えて倒壊しない構造とした建築物

主に鉄骨造や木造3階建てなど



4. 「新たな防火規制」の導入

[参考] 延焼火災による被害の様子




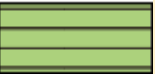

周辺への延焼を止めた鉄骨2階建て戸建て住宅(西宮市)

4. 「新たな防火規制」の導入

現在の防火規制と導入した場合の制限の内容



規制が適用されるのは、
将来、建替えや新築を行う時
です。現在の建物には適用さ
れません。

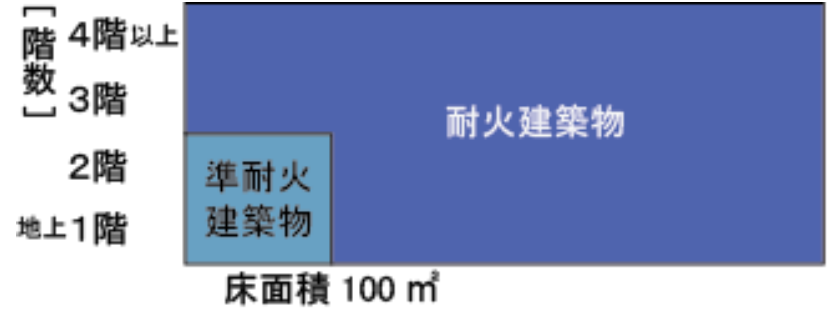
-  **防火地域**
➡ 制限は変わりません
-  **特定防災街区整備地区**
-  **準防火地域**
➡ 「新たな防火規制」の
導入により、建てられる
建物の耐火性能が
引き上げとなります

4. 「新たな防火規制」の導入



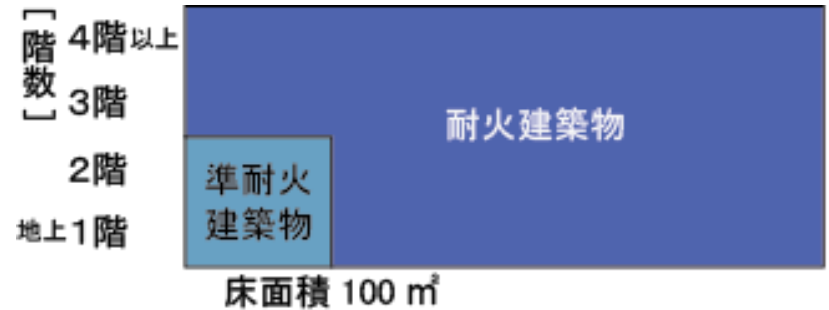
 防火地域

現在



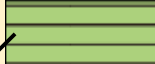
制限は変わりません

「新たな防火規制」を導入した場合

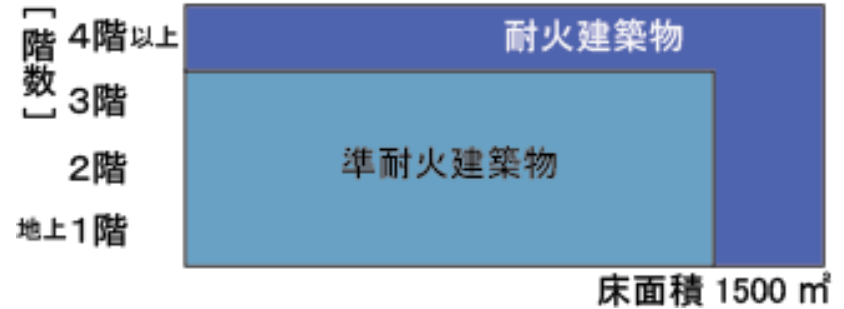


4. 「新たな防火規制」の導入



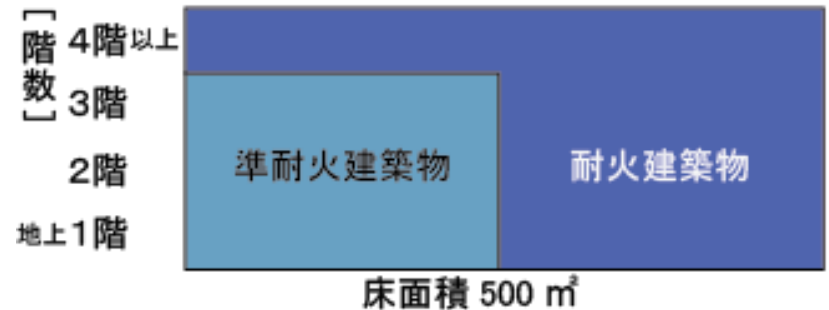
 特定防災街区整備地区

現在



耐火性能の引き上げ

「新たな防火規制」を導入した場合

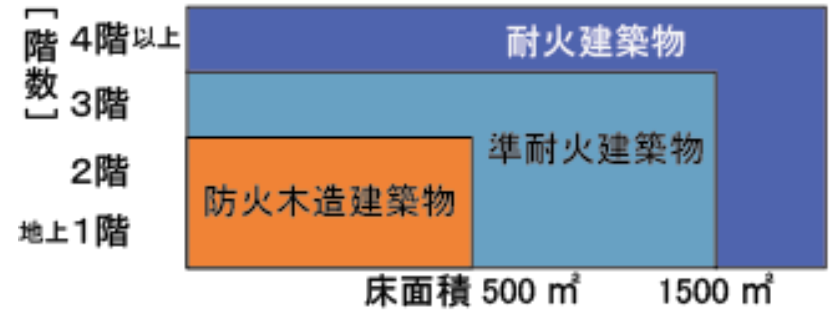


4. 「新たな防火規制」の導入



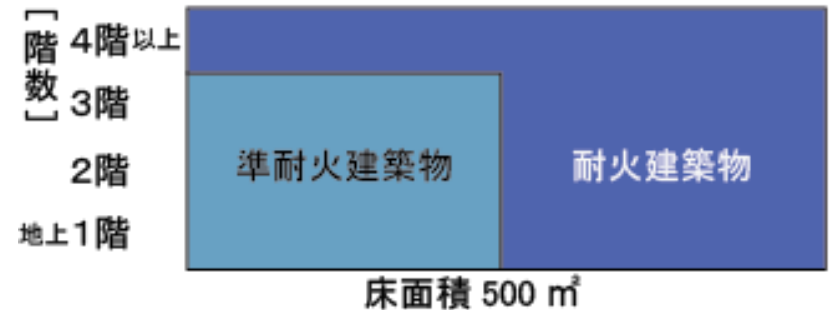
 **準防火地域**

現在



耐火性能の引き上げ

「新たな防火規制」を導入した場合



4. 「新たな防火規制」の導入

延焼シミュレーション

● 地区内で、

① 現在の建物構造の場合

② 防火木造の建築物とそれ以外の建築物（木造）
がすべて準耐火建築物になった場合

における火災の広がり方を模式的に実験しました。

燃え広がり方の違いをご覧ください

※国土交通省等が開発した「防災まちづくり支援システム」を活用

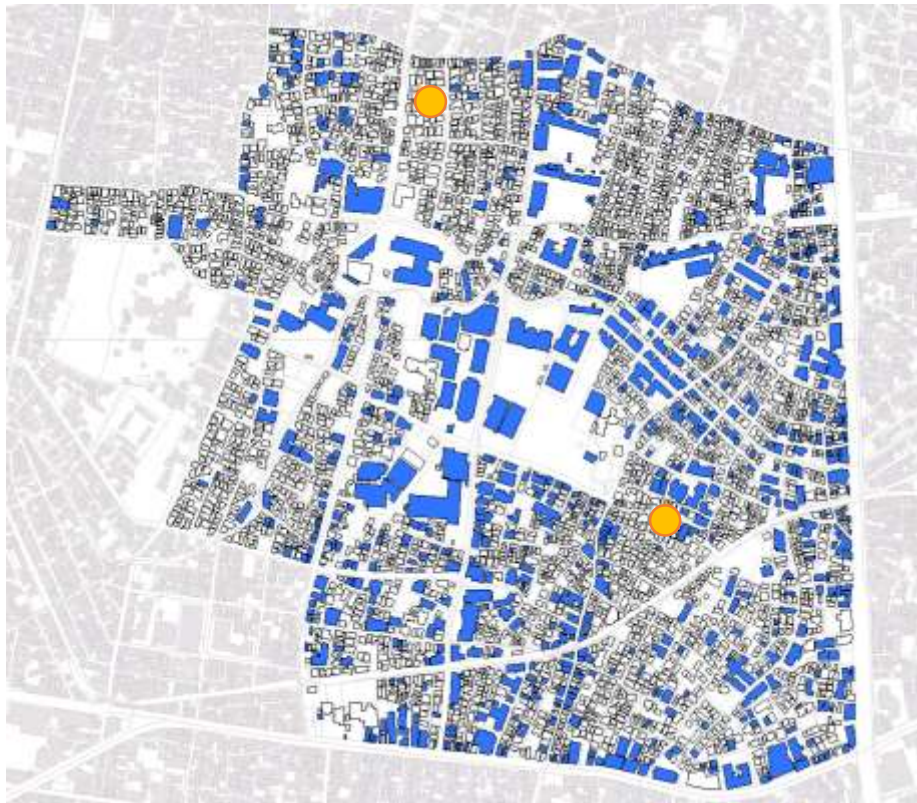
※北北西の風、風速6m/s（東京都第7回地域危険度測定調査と同様の設定）

4. 「新たな防火規制」の導入

延焼シミュレーション

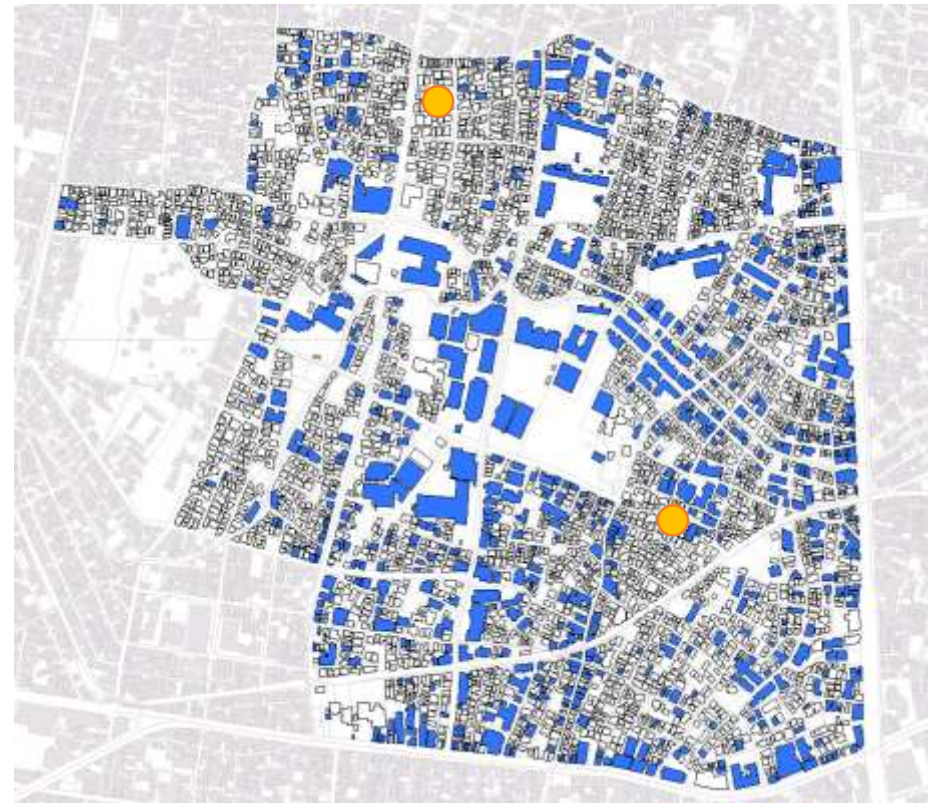
① 現在の建物構造の場合

累積焼失棟数: 0棟



② 防火木造とその他の木造の建築物がすべて準耐火建築物になった場合

累積焼失棟数: 0棟



0分



耐火造



出火点

48